

社会・インフラ開発



持続可能かつレジリエントなインフラ開発

[安全・安心・快適なモール運営体制]

イオンの防疫対策の基準「イオン新型コロナウイルス防疫プロトコル」に基づき、徹底した感染症対策を継続するとともに、消毒の徹底、キープディスタンス、湿雑度の可視化・緩和などの基本的な対策はもちろん、イベントの運用やバックヤ-

ードのオペレーションまで、全館であらゆる運営を見直し、新しい「当たり前」としての感染症対策を進化させています。

*イオン新型コロナウイルス防疫プロトコル:

https://www.aeon.info/prevention_protocol/



換気システムで空気循環を強化



来館カウントシステムによる館内過密の防止

■新型コロナウイルス感染症対策のグローバル基準評価の認証

イオンモール上尾(埼玉県)、イオンモール新利府(宮城県)、イオンモール川口(埼玉県)、イオンモール白山(石川県)、イオンモールNagoya Noritake Garden(愛知県)では、世界的な新型コロナウイルス感染症対策への評価である「WELL Health-Safety Rating」を取得しました。施設内での飛沫感染、接触感染対策をはじめ、各出入口での安全施策や施設内の清掃管理体制などを徹底し、お客さまや専門店従業員さまが安全・安心にご利用いただける施設として管理・運営を行っています。



*WELL Health-Safety Rating: 同認証は、来訪者や従業員などの健康と安全に配慮し、施設を管理・運営していることを第三者検証機関が審査するグローバル基準の評価です。

■国内外における新型コロナウイルスワクチン接種の推進支援

当社では、各自治体と連携し、モール内のホールや駐車場等の施設を新型コロナウイルスワクチン接種会場として活用いただく取り組みを推進しています。全国で約30のモールが新型コロナウイルスワクチン接種会場として使用され、約49万名の方々にワクチン接種を実施しました。

海外においても、ベトナムのイオンモール ピンズオンキャナリー(ピンズオン省)では、モール内に大規模接種会場を提

供。インドネシアでは政府との連携のもと、イオンモール ジャカルタガーデンシティ(東ジャカルタ市)にワクチンセンターを設置し、ワクチン接種を実施しました。



■早稲田大学理工学術院との共同研究

2021年4月から1年間、建築環境学を専門とする早稲田大学理工学術院の田辺新一教授・工学博士の研究室と共同でイオンモールの施設内における感染症対策に関する研究を行いました。当社が取り組む感染症対策に対して、実店舗の運用時のデータを取得・分析することで、感染症対策のリスク低減の可能性や実効性を評価しました。その他にも、新たにCO₂濃度をモニタリングして換気状況を常時監視し、お客さまへ見える化するシステムなど、新たな取り組みの導入も進めています。



[防災]

■防災協定の締結

当社は、安全・安心なまちづくりをめざし、行政や民間企業等の外部パートナーとの連携を強化しています。国内では、大部分のモールで地方行政と防災活動への協力等に関する協定を締結しています。

また、イオン(株)では陸上自衛隊や日本航空株式会社、全国の電力会社とも協定を締結しており、有事の際は協力してインフラ整備や物資提供等の支援を行い、復興拠点としての役割を果たしています。



■日本全国のモールで防災イベントを開催

有事の際に役立つ防災に関する知識やスキルを楽しみながら得ていただくことを目的に、全国のモールなどを会場として、毎年多くの防災イベントを開催しています。近隣企業や警察・消防、行政などが参加し、ARゴーグルを使用して浸水の疑似体験、救助犬とのふれあい、また、防災グッズづくりの

ワークショップなど、各モールごとにさまざまな工夫を凝らしています。これからも、継続的なイベントの実施でモールの役割を地域に発信し、防災拠点としての地位を確立していく考えです。



■海外での防災の取り組み

カンボジアでは、月に1度防災訓練を実施するとともに、毎年6月に地元の消防署の協力を得て、およそ500名が参加する大規模防災訓練を実施、SNSを活用して訓練の様子を共有し、地域の皆さまにモールの安全・安心をお伝えしています。

中国では、すべての飲食店に自動消火設備の導入を進めており、新店舗には設置が義務付けられています。導入後は従業員が定期的に点検することで防火に対する意識強化が図られ、事故件数が減少しています。ガス漏れ防止用探知機の設置も進めており、今後もモール全体で安全レベルの向上に努めます。

生産消費形態

[脱プラスチックの推進]

■プラスチック資源循環促進法への対応

プラスチック資源循環促進法が2022年4月1日から施行されました。この法律は、廃棄物の発生を最小化するサーキュラー・エコノミーへの移行を図るとともに、資源循環を成長分野として投資できる環境の整備、消費者のライフスタイルの変革促進をめざすものです。イオンモールでは、減プラスチックにとどまらず、脱プラスチックへのシフトを加速させていきます。

■プラスチック容器洗浄機の導入

これまで、使用済みのプラスチックカップや容器は、そのまま廃棄するとリサイクルができず、焼却によるCO₂が課題となっていました。イオンモールでは、お客さまと専門店従業員さま向けに洗浄機を開発、洗浄にご協力いただくことでリサイクル可能な再生資源として活用することをめざしています。すでに専門店従業員さま向けの洗浄機は、2022年3月よりイオンモールKYOTOで実証実験を開始しており、お客さま向けの洗浄機についても、導入を検討しています。



洗浄することで廃プラスチック処理へ

■環境配慮素材への切替促進

イオンモールでは、飲食店テナントの皆さまにカトラリー類をプラスチックから、紙製、木製、バイオマスプラスチックなどの代替製品への切替を提案しました。今後もお客さま、同友店、従業員とともに脱プラスチック社会の実現に寄与していきます。

■イオンモールアプリでグリーンライフポイント

環境省が推進するグリーンライフポイントの補助金交付事業者にイオンモールが採択されました。

イオンモールでは、イオンモールアプリ内に環境機能を追加し、第1弾としてテイクアウト時のプラスチック製カトラリー類の辞退に対し、ポイントを発行してまいります。また、第2弾としては、家庭の太陽光発電の余剰電力を充電したEVをイオンモールに放電し、放電量に見合ったポイントを発行する機能も2023年に追加する予定です。

